

動画解説まとめ 46 / 学び方・考え方

AI副業で選ばれるための視点・実体験・届け方

AIで似た成果物を作れる時代に、何を自分の強みにするか。スマホの伝え方の比較や発信テーマの絞り方を
使い、独自の視点、実体験、届ける力の5つの論点を整理します。

この動画の要点

AI副業のランキングを作る際、あべさんが前提にしている考え方を解説した動画です。成果物の違いが見えにくくなることを踏まえ、自分の立場から情報を見る、発信の分野を絞る、体験と感想を記録する、作る力に加えて届ける力を育てるという流れを整理します。スマートフォンを仕事道具として語る場合と高校生の生活から語る場合の比較など、視点で説明が変わる具体例を残しています。将来予測は話者の見解であり、収入を保証する理論ではありません。

01 AIで成果物を作りやすくなることと、誰から買うか・誰の発信を見るかは別の問題。

02 同じ情報でも、自分の生活や仕事の立場から見ると、伝える意味が変わる。

03 広いジャンルだけで競わず、自分の状況を重ねて発信する分野を絞る。

04 成功だけでなく失敗や普通の感想も、実際に経験したこととして記録する。

05 作って終わらず、必要とする人へ届ける活動を重視する。

資料の使い方

動画の要点を読み返し、紹介した手順を実践するときにお使いください。本文の時刻を押すと、元動画の該当箇所を開けます。

元動画：【超重要】2026年最新AI副業で稼ぐ為に今スグやるべきこと5選【チャットGPT】【ChatGPT】

<https://www.youtube.com/watch?v=hKLTjv8f8eE>

1. 似た成果物が増えると、選ばれる理由が変わる

動画の該当箇所 5:36 / タップして開く

動画の一つ目は「コモディティ化を知る」です。あべさんは、商品や成果物の違いが見えにくくなり、どこで手に入れても同じように感じられる状態として説明しています。身近な例としてガソリンなどを挙げ、品質の違いを感じにくいと、価格や手に入れやすさで選ぶようになると話します。

これをAI副業へ重ね、画像、動画、文章などで一定の品質を出しやすくなるほど、作れたという事実だけでは他の人との差が見えにくくなると考えています。例えばサムネイルを依頼する人が、どの制作者も同程度のものを出すと感じれば、値段で比較しやすくなるという説明です。

ただし、違いが見えにくいことと、必要性がなくなることは同じではありません。ガソリンの違いを意識しなくても、利用する人にとってガソリンは必要です。動画の主張は、AIで作ったものが増えるから全て無価値になると結論づけず、何を理由に自分が選ばれるかを考えようというものです。

あらゆる業界が同じ方向へ進むという話は、あべさんの将来の見立てです。全ての専門家と初心者が既に同じ品質を出せる、あるいは価格だけで選ばれると確認した調査ではありません。

- ・ 見るべき変化：作れるかどうかだけでなく、買う人・見る人に違いが伝わるか。
- ・ YouTubeの例：似た動画が多い時に、そのチャンネルを選んで見なくなる理由があるか。

2. 同じ情報を、自分の立場から説明する

動画の該当箇所 9:46 / タップして開く

二つ目は「あなたならではの尖った視点で見る」です。動画では、同じスマートフォンでも、説明する人の立場が違ふと意味が変わる例を使います。仕事で使う人なら、連絡や電話、仕事の効率を上げる道具として便利さを語ります。

一方、高校生にとっては、夜に友達と話せる、遊びに行く約束ができる、友達が使っているゲームで遊べる、といった点が魅力になるかもしれません。仕事の効率を強調する説明をそのまま聞かせても、本人が欲しいと思う理由にはつながりにくいという比較です。

AIの活用法を話す場合も、自分が詳しく知らない相手の生活を無理に代弁するより、自分の仕事や生活から見た使い道を語るよう勧めています。四十代の働く人なら、その立場で感じる仕事の手間や暮らしの工夫を通してAIを説明する例です。

情報の中身を入手できる場所が増えても、自分と似た事情を持つ人の説明なら理解しやすい、という見られ方を目指します。新しい情報を最初に見つけることだけでなく、それが自分のような人にとって何を変えるのかを説明する視点です。

- ・ 同じ題材：スマートフォン。
- ・ 仕事をする人の説明：連絡や業務の効率。
- ・ 高校生の生活からの説明：友達との会話、遊びの約束、ゲーム。
- ・ 変えるものは事実そのものではなく、相手と結び付ける使い道や意味。

3. 「この話ならこの人」と思われる分野を絞る

動画の該当箇所 13:11 / タップして開く

三つ目は「ポジションを確保する」です。AI副業全体のような広い範囲だけでなく、AI占い、AI物販、AIプログラミング、AIライティングなど、何の話をする人かが伝わる分野を目指すという説明です。最初から第一人者になるのは難しくても、何で覚えてもらいたいかを意識するように促しています。

動画では、まず自分が取り組みたいことに近い分野で、うまくいっている人を探し、その人のやり方を参考にして実践する流れを話します。その後、ある程度経験を積んだら、自分ならではの視点を付け加えると説明しています。

具体例は「四十代の人が語るAI活用法」です。そこに独身か既婚か、子どもがいるかなど、自分の実際の状況を重ねると、同じ情報でも語れる課題や使い道が変わります。まだ似た発信者が多ければ、さらに生活や経験の条件を加えて、自分が話せる範囲を絞るという考え方です。

動画の「真似する」という表現は、資料では参考にする流れとして整理しています。他人の文章や映像をそのまま自分のものとして掲載したり、自分にない経験を付け加えたりする手順にはしていません。

- ・ 参考にする人を見つける→実践して経験を得る→自分の状況や視点を加える。
- ・ 細分化は肩書きを長くするためではなく、自分の説明が役立つ相手を明確にするために使う。

4. 普通の体験と、その時の感想を残す

動画の該当箇所 14:38 / タップして開く

四つ目は「実体験に注目する」です。AIは体験談らしい文章を作れても、実際に自分の代わりに人生を経験したことにはなりません。自分が何をし、その結果どう感じたかを話せることに注目しています。

成功体験だけが対象ではありません。失敗したこと、少し恥ずかしかったこと、一般的には良いとされるものを見ても自分は別の感想を持ったことなども挙げています。例として沖縄の海を見た時に、一般的な評価とは別に、自分という視点ではどう感じたかを残す話が出ています。

勧めている具体的な行動は、何かを経験した時、そのまま忘れずに、自分がどう思ったかを書き留めることです。その記録をAIへ伝えれば、実体験を基に、相手に伝わる文章へ整理する手助けを受けられます。体験の内容をAIに作らせることと、経験したことをAIで整理することを分けています。

- ・ 記録する材料：実際にしたこと、起きたこと、自分の感想。
- ・ 成功・失敗を問わず、一般論と違った実感も残す。
- ・ AIの役割：本人が渡した体験を、分かりやすく伝える形に整理する。

5. 作る力に加えて、必要な人へ届ける力を育てる

動画の該当箇所 16:58 / タップして開く

五つ目は「届ける力を優先的につける」です。あべさんは、収入を考えるための見取り図として「価値×届ける力」という表現を使います。何か役立つものを作れても、それを必要な人へ届けられなければ、お金を受け取る活動にはつながりにくいという意味です。

画像や文章などを作る部分でAIを使いやすくなったなら、次はX、YouTube、Instagramなどで人へ伝える活動に時間を使うべきだと話します。新しいツールを触ることだけに集中せず、作ったものを誰に見せ、何に使ってもらうかという側も育てる方針です。

この動画は考え方を中心にしており、媒体別のアカウント設定や投稿操作、販売導線の全手順までは説明していません。具体的な方法は当時の別資料として案内されていますが、その中身をこの動画から推測して追加してはいません。

- ・ 価値を作る側：画像、動画、文章などを用意する。
- ・ 届ける側：相手に知ってもらい、内容の意味が伝わるよう発信する。
- ・ 掛け算の表現は考え方の説明であり、収入を算定できる公式ではない。

6. 学びを、発信する行動へ移す

動画の該当箇所 26:42 / タップして開く

後半では、あべさん自身も新しいAIを多数試してきた一方で、翌年は発信へ力を入れたいと話します。ツールが進化して、以前より簡単な指示でも一定の結果が出るようになり、新しい機能を学ぶ負担が下がったと感じているためです。これは本人の経験に基づく説明で、全ての用途で学習が不要という意味ではありません。

自分が「届ける力が大事」と言うなら、自分自身も発信を実践し、その経験から教えたいという理由も挙げています。学ぶことと伝えることを別々に終わらせず、実際に試した経験を次の説明へ戻す姿勢です。

動画を見る側にも、この動画を自分の立場で見てどう感じたかを言葉にするよう勧めています。独自の視点という大きな言葉に構えず、今見た情報に対する、自分の事情を含んだ感想から練習するという着地です。

- ・ 今見た情報を、自分の仕事や生活からどう受け取ったかを言葉にする。
- ・ ツールの学習と、体験を伝える活動の両方を続ける。

実践の進め方

01 参考にする発信者を見つける

動画の話を実践順に整理。自分が扱いたい分野でうまくいっている人を探し、何をどう伝えているかを参考にしながら実践します。

動画 13:11

02 自分の視点を重ねる

仕事や生活の立場、経験を踏まえ、同じ情報でも自分なら何を重要だと感じるかを考えます。必要に応じて発信する対象や場面を絞ります。

動画 14:38

03 実際の経験と感想を記録する

成功だけでなく、失敗や普通の出来事も、自分がどう思ったかを書き留めます。AIにはその記録を渡し、伝わる形へ整理してもらいます。

動画 15:44

04 受け取った情報への感想を発信する

まず今見た情報について、自分の立場からどう感じたかを言葉にします。動画ではこの動画への感想を、その練習の例として挙げています。

動画 20:21

AIへの相談例

編集部が作成した活用例です。動画内の発言をそのまま書き起こしたものではありません。

【編集部による活用例。動画内の逐語プロンプトではありません】この資料を根拠に、記載外の補足は区別し、私の状況を質問してから進めることを守ってください。まず私の仕事、生活でよく出会う課題、実際に試したAIや副業、話せる経験、届けたい相手を聞いてください。その後、一つの経験を、起きたこと・その時の感想・同じ立場の人に伝えたいことに分けて整理してください。私にない体験や成功実績を作らず、参考にする発信者の文章をそのまま転用しないでください。広すぎるテーマなら、私の実際の状況から絞る候補を示してください。

資料について

- ・日本語自動字幕に基づく要約です。2026年以降の市場や発信の傾向は、動画時点のあべさんの予測・見解です。
- ・独自の視点、実体験、届ける力を考える資料であり、個別の収益化を保証する手順ではありません。
- ・動画内の出典が確認できないネット上のAI生成物の割合は、本資料の根拠として採用していません。
- ・別途案内されたロードマップの全文は、この動画の字幕には含まれていません。